病害虫 防除だより

No．３８３　　令和７年８月６日

トマトキバガ発生圃場の対策について

令和６年３月に、県内の施設トマトで初めて幼虫による葉の食害が確認され、その後は複数地域の施設トマトで被害が確認されました。定期的な薬剤散布により、被害が最小限に抑えられている圃場もありますが、抑えきれておらず、果実への食入も認められる圃場もみられます。

トマトキバガが発生したら、施設外への拡散と次作への持越しを防止するため、下記の対策を実施しましょう。

１　施設周辺の環境整備

成虫の飛び込みを防ぐために、トマトハウスの開口部には防虫ネット※を設置する。

※目あいは0.8mm以下が良い
0.4mmでコナジラミ類の侵入抑制効果も期待できます

施設周辺は除草して生息域を減らす。

図1 成虫(5～7mm)

図2 フェロモントラップ誘殺虫

２　圃場の観察

圃場内で白～肌色の葉があったら、ヤケや他の病害虫によるものか、トマトキバガの加害痕であるか観察する。トマトキバガは、表皮を残して袋状に食害するため、薄皮の中に幼虫や黒い虫糞が見える。被害程度が激しいと果実への食入が見られるが、果実の侵入痕は小さいため見逃さないように注意する。被害を見つけたら、被害植物および残さは、地中深く埋めるまたはビニール袋等に密封して死滅させて処分する。

黒い虫糞　※ハモグリバエ類と異なり面的な潜入痕が残る

図3 加害痕(拡大図)

図4 被害葉

※小さな食入痕と果実外に虫糞が残る

図5 被害果実

３　薬剤による防除

発生を確認したら直ちに防除を行う。但し、同一系統薬剤の連用は避ける。

苗の段階では被害が大きくなりやすいので、育苗期後半～定植時の薬剤施用により、初期加害を防ぐ。

防除薬剤については、次頁を参照する。

登録農薬の検索はこちらの２次元コードから→

図6 被害苗

４　栽培終了後の対策

発生したトマトキバガを次作に持ち越さず、周囲に拡散させないため、残渣処分する前に、ハウスの開口部を全て閉め切って「蒸し込み処理」を行い害虫を駆除する。コナジラミ類等他の害虫にも駆除効果がある。

蒸し込み期間の目安：１０日以上（連続晴天日３日以上）

令和７年度農作物病害虫防除指針（福井県）が県HPから閲覧できます。

https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/021033/shokuryouanzen/boujoshishin.html

福井県農業試験場病害虫防除室　連絡先：０７７６（５４）９３１５

福井県病害虫防除室

https://www.pref.fukui.lg.jp/doc/noushi/kankyo/boujyo.html

二次元コードをスキャンしてください→

農薬の飛散に注意しましょう

農薬の安全使用に努めて適期防除しましょう

トマトキバガに登録のある農薬（R7.8.6現在）

◎散布剤

IRACｺｰﾄﾞ	農薬名	有効成分	ﾄﾏﾄ	ﾐﾆﾄﾏﾄ	希釈倍数	散布液量（L/10a）	使用時期	本剤の使用回数
-,5	ダブルシューターSE	脂肪酸ｸﾞﾘｾﾘﾄﾞ+ｽﾋﾟﾉｻﾄﾞ	○	○	1000倍	100～300	収穫前日まで	2回以内
5	ディアナSC	ｽﾋﾟﾈﾄﾗﾑ	○	○	2500～5000倍			2回以内
	ラディアントSC		○	○	2500～5000倍			2回以内
6	アグリメック	ｱﾊﾞﾒｸﾁﾝ	○		500～1000倍			3回以内
	アニキ乳剤	ﾚﾋﾟﾒｸﾁﾝ	○	○	1000倍			3回以内
	アファーム乳剤	ｴﾏﾒｸﾁﾝ安息香酸塩	○	○	2000倍			5回以内
11A	ゼンターリ顆粒水和剤	BT（生菌）	○	○	1000倍		発生初期（但し、収穫前日まで）	-
	エスマルクDF		○	○	1000倍			
	チューンアップ顆粒水和剤		○	○	2000倍			
13	コテツフロアブル	ｸﾛﾙﾌｪﾅﾋﾟﾙ	○	○	2000倍		収穫前日まで	3回以内
22A	トルネードエースDF	ｲﾝﾄﾞｷｻｶﾙﾌﾞ	○		2000倍			2回以内
	ファイントリムDF		○		2000倍			2回以内
22B	アクセルフロアブル	ﾒﾀﾌﾙﾐｿﾞﾝ	○	○	1000倍			3回以内
28	フェニックス顆粒水和剤	ﾌﾙﾍﾞﾝｼﾞｱﾐﾄﾞ	○	○	2000倍			2回以内
	プレバソンフロアブル5	ｸﾛﾗﾝﾄﾗﾆﾘﾌﾟﾛｰﾙ	○	○	2000倍			3回以内
	ベネビアOD	ｼｱﾝﾄﾗﾆﾘﾌﾟﾛｰﾙ	○	○	2000倍			3回以内
	ヨーバルフロアブル	ﾃﾄﾗﾆﾘﾌﾟﾛｰﾙ	○	○	2500倍			3回以内
30	グレーシア乳剤	ﾌﾙｷｻﾒﾀﾐﾄﾞ	○	○	2000倍			2回以内
UN	プレオフロアブル	ﾋﾟﾘﾀﾞﾘﾙ	○	○	1000倍			2回以内

◎育苗期後半～定植までに使用できる灌注剤※1・株元散布剤※2

IRACｺｰﾄﾞ	農薬名	有効成分	ﾄﾏﾄ	ﾐﾆﾄﾏﾄ	希釈倍数	散布液量（mL/株）	使用時期	本剤の使用回数
28	プレバソンフロアブル5※1	ｸﾛﾗﾝﾄﾗﾆﾘﾌﾟﾛｰﾙ	○	○	100倍	25mL	育苗期後半～定植当日	1回
	ベリマークSC※1	ｼｱﾝﾄﾗﾆﾘﾌﾟﾛｰﾙ	○	○	25mL/400株	10～20L/400株（25～50mL）		
	プリロッソ粒剤オメガ※2	ｼｱﾝﾄﾗﾆﾘﾌﾟﾛｰﾙ	○	○	2g/株	-		